

- 勾配り木（野縁取付材）の算出に付いて。
 勾配り木は必要か所を計測・計算し必要数量を算出する。 .5 間間隔に取付け。
 取り付けか所によって、むくり加工に違いがある。
- 吊木受材の算出に付いて。
 勾配り木に取付けられた吊木を受ける材料であり、根太・柱木・母屋等を兼用しないこと。計測・計算し必要数量を算出する。 一般的に間伐材（小径木材）が使用される。
- ※ 日本古来の日本建築の伝統工法（真壁工法）による住宅建築の壁下地木舞い搔竹組（地方によって、地域に産する竹を使用する為に竹組の違いがある）。による。木舞搔き荒壁塗り裏戻しの面積は、床面積の 2 倍。 中・上塗り面積は、床面積の 3 倍。を目安として 使用材や土寄せなどの量が決められてきた。
 また中塗りの乾燥は、春・夏・秋・冬の四季を通じ自然の乾燥を見て、上塗りの作業をするのが一般的であった。
- ※ 人間生活地域を地球の気候的に大別すれば、温熱帯・亜熱帯・亜寒帯の 3 地帯に大別される。 各地帯によって使用される材料や工法の違いが、気候・風土により大きく違っていることを、再認識が必要となってくる。